

会 議 録

会議の名称及び会議の回	社会教育委員会議 令和元年度 第1回定例会
開催日時	令和元年5月28日(火) 午後1時30分～
開催場所	飯田市役所 A棟3階 A301・302 会議室
出席委員氏名	今村幸子、今村光利、太田兼彦、上河内陽子、竹内稔、永井祐子、中島正韶、服部珠予、平田睦美、三浦宏子
出席事務局職員	代田教育長、今村教育次長、高坂学校教育専門幹、北澤生涯学習・スポーツ課長、馬場文化財担当課長、小椋歴史研究所副所長、秦野公民館副館長、棚田文化会館長、瀧本中央図書館長、槇村美術博物館副館長補佐、小嶋地育力向上係長、前澤主査、島田主査、原主事、熊谷社会教育指導員
会議の概要	以下のとおり

※公表の会議録は正副座長以外は（委員氏名）を掲載しません。

1 開会

2 委嘱状交付

出席委員10名へ代田教育長から委嘱状を交付。

3 あいさつ

（代田教育長）

改めまして皆さんこんにちは。本日は令和元年度第1回社会教育委員会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。今年度は改選時期ということで、新しく任命された方が3名、そして留任していただいた方という構成でただいま10名の委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきました。

留任された委員の皆様にはぜひ引き続きそれぞれの見地で、ご意見、お力添えいただきたいと思いますし、また新しく委員となりました竹内さん、平田さん、太田校長先生、それぞれの立場で、ぜひこの社会教育委員会議の中で新しい風を吹かせていただければなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

さて、私の方から、この土日で非常に印象に残ったお話をさせていただければと思います。

今日のこの南信州新聞なんですけれども、口伝え昔話そのままにということで、皆様ご存知かと存じますが、小澤俊夫先生という筑波大学名誉教授の方が来て、昔話を研究するというので、全国から150名の方々が来て、柳田國男館で昔話をお互いに伝え合ったという機会です。小澤俊夫先生は皆さんご存知の小澤征爾さんのお兄さんということで、雰囲気とかオーラはほんとにすごい方だなあということが一目瞭然なんですけれども、実際に小澤さんがなぜ飯田に来るかっていうと、あの柳田國男館で25歳の時に、民俗学の父と言われた柳田さんに、君は昔話の研究をしたらどうだと言われたという話を、お会いした時から言われていて、それでこういった昔話を柳田國男館での小澤先生の研究発表というのがこういった形で行われるんですけれども、控室で小澤先生と話をしている時、自分は恥ずかしいなと思った出来事がありました。

小澤先生がこういうんです。「代田教育長、どんな想いで飯田の人たちは柳田國男館を世田谷から持ってきたのかな」という質問をされてですね、もちろん私自身、飯田へ養子に来て籍があって、たびたびこの飯田の地に来ていたというのは、その背景や経緯くらいはわかっていますけど、あの世田谷にあったら大変だと、もし飯田市が移築しなかったらどこかへ散在したかもしれない、それをよくぞ飯田の人たちはここへ持ってきてくれたんだなあ、本当に私はここに息づいていてうれしいと、そういう話を聞いた時にですね、私がそこに、昔の飯田市の人たちにですね、思いを馳せていなかった自分の至らなさをつくづく感じたわけなんですけれども、背景には飯田の人たちが社会教育を大事にし、柳田國男を

大事にしていたということではあるんですけども、その深い思いまでにはまったく至っていないなあと反省し少しづつ勉強していかなければならないなあというふうに思って、さらにそういう思いが全国に発信されて、全国から150人近い方々が来て、ここで、この飯田の地でそういったものを勉強しているというのはやはりすごいなあと改めて感じたところでもあります。

今日の社会教育会議に繋げるわけですけども、もちろん学校教育は大事ですし、家庭教育も大事だと思います。その一方で、その地域でしかない学びというものは確実にあって、その中で飯田で大事にしてきたものは確実にあって、そういったことを強みとしてこれからのリニア時代、小さな世界都市へ向けても、ますます大事になってくるんだろうなと、そんなふうに思っています。私自身も柳田國男館の移設経緯を勉強するとともに、皆さんそれぞれの分野で私の知らないこともあると思いますので、教えていただきながら、私自身の知見を返さなければいけない、お互い交流しあうことで、この飯田市の社会教育がもっともっと豊かになるといいなというふうに思っています。

任期今年から2年間ということになりますが、ぜひ委員の皆様には、冒頭申し上げましたが、それぞれの視点でお力添え、ご助言等いただければと思います。

本年度もよろしくお願いいたします。

4 委員・職員 自己紹介

社会教育委員、事務局の自己紹介。

5 説明・確認事項

- (1) 飯田市教育委員会の組織について
- (2) 社会教育委員会の職務について
- (3) 審議会等への委員の選任について

(北澤生涯学習・スポーツ課長より説明)

6 協議事項

- (1) 座長、副座長の選出について

(北澤生涯学習・スポーツ課長)

協議事項に入らせていただきます。まず座長、副座長の選出についてでございますが、事務局案をご提案させていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

～賛成の声～

それでは事務局案を提案させていただきます。座長につきましては中島委員さんに、また副座長につきましては永井委員さんにそれぞれ引き続きお願いできればと存じますがいかがでしょうか。

～拍手により承認～

それでは、中島委員さんに座長を、永井委員さんに副座長をお願いしたいと存じます。

前の席へご移動いただき、座長、副座長就任のごあいさつをいただいた後、以降の進行を中島座長にお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

(座長)

皆さんこんにちは。引き続きまして座長を務めさせていただきます。委員の皆様をはじめといたしまして、代田教育長様、事務局の皆様方、よろしくお願いいたします。

今、法的な意味での社会教育委員の位置づけについては、ご説明がございましたが、社会教育委員の仕事の基本は、委員が意見を述べること、意見を伝え合うことにあります。飯田市の社会教育行政につきまして、この会議として、あるいは個々の社会教育委員として、それぞれの形で意見を申し伝えると、述べるということが、社会教育委員の仕事であります。

もちろん意見を汲み上げてどのように政策化していくか、どのように予算をつけて運用するかは教育委員会の仕事ですし、市長や議会の仕事ということになりますので、私たちは思うところをしっかりと述べていくということになるわけでございます。

それからもう一つ大事な点は、私たちは飯田市の社会教育行政の姿とか、やっていることを一般市民に紹介をする、伝えるべきことをそれぞれのジャンルでそれぞれ説明をしていくということでございます。行政と市民との懸け橋になる、それが社会教育委員であろうというふうに思っております。

今ここに上小、上田小県地域の社会教育委員活動情報というこの冊子の題は、「かけはしとなりて」となっています。まさに今申し上げたことが、この冊子の題名となって表れている訳でございます。

本日はかなり密度の濃い内容でございますので、ぜひ深い会議としていただきますよう、またその後で研修会の時間をいただきますので、よろしくお願いいたします。

(副座長)

これから2年間よろしくお願いいたします。

(2) 社会教育関係各課・館・所の令和元年度の取組方針と具体的事業について

(座長)

それでは議事に入っていきます。(2)の各課・館・所の取組方針と具体的事業についてでございます。5分くらいずつでございますけれども、時間の調整を図りながらお願いします。

(担当より説明)

ありがとうございました。たくさんございますので、区切らずに、発言したいところから、またその発言に合わせながら、重ねて発言できるところは発言していただきながら進めていく、そんな形でお願いしたいと思います。

(委員)

二つあります。一つ目は、文化会館の小中学生音楽鑑賞事業につきまして、小中学校の希望するところでクラシックの音楽会を開催する機会があるということなのですが、全部の学校ではないというのは、できるだけみんなにクラシック音楽を聴かせてあげたいと思いますので、前年度に受けていないところで行うなどの配慮があればいいのではと思いますが、いかがでしょうか。

もう一つは、図書館の若い世代の利用が減っているということなのですが、その中でリクエスト図書を最優先して蔵書しているということなんですけれども、そうするとリクエストする方たちが高齢者であったりとかして、決まった年代層になってしまっているのではないかと。若い世代の利用を促進したいのであれば若い世代のニーズでのリクエスト図書をプラスしてはどうかと感じました。

(棚田飯田文化会館館長)

この事業でございますが、まず小中学校へ希望を募りまして、希望が上がってきたものについて今回こういった形で実施させていただくこととなっています。学校のそれぞれの都合による希望によりまして開催されるということになっています。

(瀧本中央図書館館長)

高齢者の利用が多いということもあるのですが、図書費の方は年代に応じて予算を配分しておりますので、そちらの方まで食い込んで使うということはないんですけども、リクエストについて、若い皆さんが読みたい本とはどういう本なのか、なかなか要望を掴むことが難しいということが課題ともなっております。学校の図書委員の皆さんに意見をお伺いすることもあるんですけども、なかなか使っていただけない皆さんの要望をどう掴むかが難しいと思っております。それをどうすればできるかという良い意見があればお伺いしたいと思いますし、図書館としても具体的に考えていきたいというふうに思っております。

(委員)

保護者としては、学校の方へ要望すれば、学校の方がその提案に乗ることができるという機会がある、ということがわかりました。

図書館については、SNSで読書メーター、いろいろ若い人たちの意見が載っているのがあって、面白いと思って見ておりますが、いかがでしょうか。

(委員)

二点質問させていただきます。その一は、先ほどの資料で飯田市教育委員会の組織図をいただきましたが、私ども社会教育委員はどの位置に入るのかなと思って、これ配られたけど、私たちどこにいるのっていうふうに思いましたので、そこをご説明いただきたいと思います。

もう一点は、小学校で図工を教えているんですけど、春草の鑑賞事業にすごく興味があります。5、6年生にぜひそんな授業を受けさせたいと思うんですが、出前授業でいいのでしょうか。それとも美博へ行かないと受けられないのか、そのところをお聞かせください。

(今村教育次長)

組織図につきましては、言葉で言いますと、社会教育について意見をいただき、私たちが反映していくということになります。それを目に見える形で、社会教育委員が飯田市教育委員会の中で、どのような位置づけかを俯瞰できるものを、至急整えて配布するようにしたいと思います。

(榎村美術博物館副館長補佐)

学校は規模いろいろありますので、ご希望に合わせて対応しております。大きな学校は私たちが出向いて教室で授業等をするのもございますし、小さな学校ですと美術博物館に来ていただいて作品を実際に鑑賞しながら鑑賞授業をするということも行っております。美術博物館ですけれども、春草の重要文化財となっている代表作の複製画を所蔵しております。一つは「黒き猫」という軸装ですが、掛軸ですね、持ち運びができるものですので、こういったものを実際に教室へ持っていきまして、複製画の原寸大なんですけれども、美術博物館ですとガラス越しですけれども、近くに寄って観察できると、そういった授業を行っています。

それから「落葉」という作品がございますが、こちらは六曲一双屏風の作品です。これも複製画を所蔵しておりますが、これはさすがに学校まで持ち運ぶことが難しいので、美術博物館の展示室や講堂のような施設ですね、そういうところへ屏風を立てまして、これもなるべくガラスなしですね、子どもたちが観察して見られるようなことをしております。

ご希望に応じて美術博物館で展示しているものを持っていったりするというところでございます。

(委員)

学校に関する話が続きましたので、そのことについて、学校教育に携わる立場から感謝とお願いを申し上げたいと思います。

先ほど話があったけれども、鑑賞教室に関する件でございますが、以前は全郡で音楽鑑賞教室を実施しておりましたが、少子化に伴ってなかなか厳しいものがあるということで、全郡での音楽鑑賞教室はなくなってしまって非常に残念だなと思っていたんですけど、飯田市でこういう形でやられているということで、昨年実際に本校を含めて竜東中学校区で鑑賞させていただいたんですけども、非常に良かったということで、本年度も応募しましたところ、やっていただけるということで大変喜んでおります。ぜひ、予算も大変かと思いますが、希望された学校をできるだけ多く実施できるようお願いしたいと思います。

もう一点ですけれども、(生涯学習・スポーツ課の)7のLG子ども未来事業に関わってでございますけれども、非常に素晴らしい事業で、交付金によって非常に助かっております。子どもたちに有意義な体験活動ができていると思っておりますが、飯田市の規定の関係で、体験活動をするためにはどうしても校外へ出ていくことも必要となってくるわけで、歩いて行けるところは歩いていく訳なんですけれども、バスであるとか、車両を使わなければならないということなんですけれども、車両規定によってバスを使えるのは1校年2回という形で制限されてきてしまっております。非常に苦しいものがあります。やはり活動を充実させるためにはできるだけ多く車両を用意していただく必要があるのかなど。先ほども美博からも魅力的な提案がありまして、行きたいなあと思うんですけども、例えばこれ行くためにはどうしても車両を用意していただかなくてはならないんですけども、そこに制限がかかると断念をしなければならない場合も出てまいりますので、ぜひ厚くお手当いただければありがたいかと思ってお

りますので、よろしくお願ひします。

(委員)

2点お願ひします。まず、美術博物館に関してでありますけれども、人文の評議員をさせていただいています。立場上今度の展示の充実というのは美博全体にかかわる内容というふうに理解させていただいているんですけども、13ページのところを見ますと、自然と文化常設展示室のリニューアルについて、館内調整しているとございます。今まで人文の方に関わりながら、人文でいうところの要望と自然と、あるいは美術との関係、これがトータルで機能しているのかという疑問に思わずにはいられない点がいくつかありました。今回ICT・デジタルコンテンツを導入してと謳われておりますので、6月8日には具体的な形として見せていただければ美博の評議員の意味があると思いますが、何せ7月20日に迫ってきております。その中で展示パネルなどにしましても関連するところとの連携がとれているのかどうか、もう発注をされているとするならば、私が聞いているところでは、その辺の関連がうまく取れていないように見えます。その辺のところをぜひ関連を取っていただきたいなど。これ今までずっと美博に関わっている者として思うところでもあります。今回のリニューアルに関して間に合わないということであるのならば、それから以降に関してはぜひそういう視点を持っていただいて、3つの部門がちゃんと関連して飯田ってのはこういうところだと理解できるような形にさせていただきたい。というのが1点であります。

伝統人形芝居振興事業で黒田人形座等に助成金等が出ているかと思いますが、先日ある団体の総会へ行きましたところ、その総会資料が事前に全部刷られていて、そこで意見を言っても、もうそれは取り上げてもらえないような状況になっていると。これではせっかく総会で意見を言っても活かされないのではないかなという現状が確かにあります。そういう点についてやはり教育委員会の方で、適切なお指導といいますか、注意喚起などしていただいて、本来ならばそういうことではないはずだと言っただけだと、せっかく助成していただいているお金ももっと有効に使われるのではないかと、必要に応じては管理者が、指定管理者という形を取っているのですけれども、文化会館の方でそれを行うとか、どうも慣れない方が管理者としてやっていて、いろいろと問題が出てきているようなふうにも伺っておりますので、その辺のところをぜひ具体的にこうした方がいいんじゃないかということをおアドバイスしていただければと思います。

(榎村美術博物館副館長補佐)

昨年アンケート等でご意見を聴きまして、評議員会も何度かさせていただいております。いろいろご意見をいただいたことを伺っております。現在美術博物館では自然、人文分野で一緒になりまして展示解説パネル、展示物をどうするのか、具体的な議論をしているところでございます。さまざま意見をいただいたことが反映されているものもあればそうでないものもあるということで、今急ピッチで研究しているというところです。今度人文分野の評議員会というのがあります。そこではしっかり反映されたものを作って資料を出してご理解いただけるように指示しておりますので、よろしくお願ひします。

(棚田飯田文化会館館長)

この間、総会におじゃまさせていただいたので、状況の方は把握しておりますので、会の皆様と話をしながら、良い方向になるよう進めていきたいと思ひます。

(委員)

私はいつもこの資料をプレイヤーとして見ておりますので、この事業に合わせてシニア大学とか公民館でどんな事業をやるのかなと参考にしながら見ておるのですが、それで見えてこない部分のところをお尋ねしたいと思ひます。

美博の評議員をやらせてもらっておりまして、そこで話題には出るんですが、美博、図書館、歴研とか含めてそうなんですが、地域にたくさんのストックがあります。美博であれば収蔵物、民俗学研究所のストックがあります。それから図書館もバックヤードがかなり手狭になっていると思ひます。それから文化会館は建替えなければならぬほど老朽化した部分がある。そのような部分について、あまり市民に訴えてくるようなことがあまりない、見えてこない部分だと思うんですね。私たちが公民館をやったりすると、市民の側で何かできることはないかっていうのを考えていこうとした場合に、こういう

ところに何か考えなければならない計画が、文化会館はあり方を研究するっていう部分があるんですが、今現状それらの施設について、バックヤードやストックの部分、これは決して廃棄してはならない部分だと思うので、たまる一方の部分も大事な物なので、その施設としてどんな現状でどれくらいのものが必要なのか、市民にできることはないか、何か参考になることがあれば聞かせていただきたい。

それと学校の中にある資料室等にもかなりの産業遺産になるような資料があります。ほとんどが廃棄の道をとっています。価値のあるものであれば美博などに来るのですが、美博でももういないという物もあるので、廃棄に回っているものがあるので、その辺の現状を聞かせていただければと思います。

(今村教育次長)

文化会館と飯田市公民館と鼎文化センターのあり方についてはご案内のとおり飯田市は平成 26～27年に公共施設マネジメントを作りまして、3つのホールをこのまま維持することは飯田市の財政的には大変難しいので、それを1館にするのか2館にするのかという検討をしようということをお示ししています。それをどうやって進めていくかという、分野別といいまして、文化等に関わる皆さんとの検討あるいは地域別といいまして、地域の皆様と検討を始めようということになっているのですが、一方で南信州広域連合ではリニア時代に向けて新しいホールがほしいという要望が県知事に出まして、それとの兼ね合いの中で飯田市としてなかなか判断が難しい状況になっていますが、最近になりまして、広域連合で造る施設はアリーナ、体育館系なので、ホールは飯田市内で検討しよう、話は大きくは整理されつつあります。検討する時期としましては、飯田市もこれからリニアに向けて相当大きな財政投資がありますので、その辺が明らかになってくる段階でホールのあり方については、市民の皆様をしっかり情報提供し、検討いただける機会を取りたいと思います。

美博等につきましては、ご案内のとおりストックヤードは満杯です。これからどんどん増えていくと思います。増えていくものを限りなくストックしておけばいいのかというと、そういうことではなくて市民にどう還元しながら、どういうストックがいいのかということは常々研究しておりますし、学校のような施設も資料というもの、飯田市は歴史研究所を作った時とかいろんな議論があって、これまでは公文書なども期限が来れば捨てるのが当たり前だったのですが、それがこれからの未来を考える上で適切な資料になるという考え方に基づいて今取り組んでいます。この場ではどのストックヤードをいつまでにどうするという案は持ち合わせておりませんが、これから、ホールのあり方もそうですが、社会教育機関いろいろな機能がありまして、それぞれ機能を果たしていますが、市民に成果を還元していくためにはどのようなあり方がいいのかというのは、今、緒に就いて検討をしている最中でありまして、その都度必要な情報等示しながら一緒に検討いただきたいなと思っておりますので、課題としては認識しておりますので、ご一緒に研究させていただきたいと思います。

(座長)

過去の社会教育委員会でも社会教育施設のあり方について議論してきた経過がありますが、先ほどの広域連合の話を含めて、今の飯田市の場合では、ある方向性が見えて、これが未来の飯田市にとっていいんだということがうまく盛り上がれば、一気に進めるだけの市民の感覚はあるんじゃないかというふうに思っています。

(委員)

公民館ですけれども、飯田市で一番大事なのは公民館と強く思っていますので、公民館についての提案なんですけれども、子どもたちと関わったり、若いお母さんたちと関わったりすることが多いんですが、つい去年、乳幼児学級で子どもたちに科学教室をやったんですけれども、少ない人数にびっくりしました。松尾で7、8組です。4、5年前にやった時には、二十何人来ました。これはなぜかって思った時に、今、サークル、地域にサークルがいろいろできて、お母さん方がそちらを共有して、市でやっている乳幼児学級と変わらない感覚でいます。これについて違いをわかってもらう、それで公民館の方へ来てもらうというようにすることが一番地域と結びつくとか、お母さんたちが勉強するとか、地域との協働とかいろいろなことと関わっていく中で大事なことじゃないかと思うんです。若いお母さんたち、今、自分の好きなことをやっています。あまりうるさいお話を聞くと嫌だからやめようっていう話もあったりします。ただその中で見ていると、自分たちでグループ作っているような活動をしている人たちもいっぱいいます。やっぱりそれを公民館なり地域が受け皿にならないといけないと思うんです

ね。

なので、すごく活動的にいろんな乳幼児でサークルを持っているところがあります。それともう一つ公民館の中で部屋を使えるっていうのは団体として一つ登録すれば、飯田市のどこの公民館も使えると思うんですけども、そこが認知されてない。ですから、いろんな団体が他のところに移ってっちゃうんですね。何か活動しようと思っても、公民館で、おそらく使わないんですね。私もあるとき松尾の文化祭でお花のサークルやってる人がいて、松尾の公民館でやってないんで、なんで公民館でやらないのって言ったら、えっ借りれるのっていう、そういう状況ですね。それで借りれるから主事に話をしてこういう活動したいからぜひやりましょうと、松尾中にチラシまいたら公民館活動になりました。

やっぱりそういう働きかけが大事かなって思います、具体的に言うと。だから、今おそらく若いお母さんたちもやる場所を探していると思います。それで乳幼児学級に来たお母さんたちだけでもいいですし、公民館としてたくさんのツールがあるので、広報して公民館、いろんな団体使えますよっていうことをより広報する方がいいかなと。今年は見えて、高校生たちをすごく取り入れていて大事なことだなってすごく思います。それとともに若い人たちの層が地域で大事なところなので、そこをいかに取り入れていっていかってということを考えて活動していただきたいなと思います。公民館大好きなのでよろしくお願いします。

(秦野飯田市公民館副館長)

大切な視点、いただきました。実は私どももこの4月に乳幼児学級ですとか、ネットワークトライアングルさんとの話の中で、その課題をすごく認識しているというところがあります。社会教育関係団体全体の活動しているサークルは、減少傾向です。あともう一つは、ネットワークトライアングルさんに参加をしていただくようお声掛けはしているんですけども、一緒に情報交換しましょうというところも減少傾向ということは認識しています。ただし、トライアングルさんの行っているフリーマーケットですね、これに関しては、何時から受け付けますっていうふうにやるんですけども、あっという間に埋まるということで、まったく需要がないということではないと思っているわけでございまして、そこをどうしようかっていうところを、ぜひまたいろいろなお知恵をいただきたいと思っております。データを見てしまうと、子どもを未満児保育へ出してしまっていて、公民館へ来るというよりも、どちらかというと働きに行ってしまうって親子が参加してこないという、そういう地域もあるということは主事の中でも共有をしておるんですけども、今、〇〇委員がおっしゃられたように、集まっている皆さん、そこにどういふふうに関わるかというようなところは、今後われわれだけではなく皆さん方も、実際近い皆さんのご意見をいただきたいなと思っております。年度始めですが、そのような話を市の公民館の中で社会教育コーディネーターともしてございまして、今後どのような形で次世代を担う若い女性に関わってくれないと、地域の次のステップにならないと思っておりますので、ぜひご意見等賜りたいと思っております。

(座長)

分館クラブが発展していった分館の施設で間に合わなくなったときに、いわゆる本館の公民館を使う場合には、社会教育団体の申請をして、〇〇委員の言われたように本館クラブとなって公民館施設を使っていけるということです。

次第の(4) 社会教育委員会議の活動についての意見交換・情報提供についても皆さんの思いが込められておりますので、それも併せた形でご発言をいただきたいと思っております。

(委員)

2点お願いします。まず図書館についてなんですけれど、最近、外国から呼び寄せなどで来られる、中学生、高校生くらいのお子さんが読めるような蔵書を、地域住民の、外国人住民の中の家庭や子供たちにリクエストのような機会を設けて増やしていただければありがたいと思っております。

他の図書館、松川ですとか高森ですとかたまに行くんですけども、なかなかそういった蔵書がなくて、中央図書館から借りても自分の住んでいる地域からは返せないとか、返すのは飯田へ来てくださいということで借りられない子どもたちもいますので、他の館にももう少し多言語の図書があればいいと思いました。

2点目なんですけれども、人形劇フェスタに昨年度参加させていただいて、ものすごく暑くて、待ち

時間、室内で待てる場所もありますけれども、そうでない場所もあって、暑さ対策といえますか、今後も夏開催を続けるかという、時期についても考える機会といえますか、最近の気候変動で不安を感じましたので、意見を申し上げます。

(瀧本中央図書館長)

図書館をよくご利用いただいているということでありありがとうございます。確かに棚を見ていただくと、大人の方の本、また絵本が多かったりして、児童書っていうのがあるんですけども、若い世代が少ないという話ではないんですが、中高生向けの本は確かに少ないという形にはなっております。国際交流ですとかそういう関係の会議へ行ってお話を伺うことはあるんですけども、中学生、高校生が読みたい本というのは今どんなものがあるか、リサーチが足りなかったところもあると思いますので、またお伺いしながら考えていきたいなというふうに思います。

ネットワークを組んでいるよその自治体、取り寄せはできるということなんですが、その図書館で買う、買わないというのは飯田の方からどうこうということではできないんですが、返却をするときの少し不便さがあるというお話はお伺いしまして、ネットワークの会議の中で話をしていきたいと思っております。

飯田市の各地区にある分館でも、特に竜丘では要望があって中央図書館からセットで貸し出ししたりとか、学校から近いところで借りられるような取組もしておりますので、そんなことも各地区でご活用いただければというふうに思います。

(棚田文化会館長)

人形劇フェスタの暑さ対策、もしくは開催時期の変更はどうかというご意見ですが、昨年フェスタの中心会場となりました中央公園等では確かにあまりにも暑すぎて、いくつかの公演を中止したという事実もあります。今年のことにはわからないのですが、何度以上になったら中止するなどの対策を取らざるをえないかと考えておりますが、実行委員会で協議しながら進めたいと思います。

また、開催時期につきましては、40年の実績があります。なかなか開催時期を、8月の上旬を動かすのは難しいと思いますが、その中で対策を打ちながら実施していくことが大事であると考えています。

(委員)

公民館の活動を通して地域の歴史文化、自然等の先人達の思いや祈りがずっと込められて伝えられてきた、そういった価値について非常によかったなあということがひとつございます。(生涯学習・スポーツ課の)24の「文化財資産化事業」にもかかわってくる話ですが、この地域の魅力を再発見して子どもたち、学校教育と社会教育と連携してできた活動の中で、文化財としての価値がすごいものがあって、しかも学校教育と社会教育の融合については、前から目的であったわけですが、さらにコミュニティスクールという、そういう体制の中で、地域の中で進んだ形でさせていただいたことをよかったなあと思うことを、さらにまだまだいろいろな可能性を秘めているところでもあります。そういった効果を生み出しながらも今現在、文化財の資産化事業のところ、現況をお聞きしたいのと、なかなか私たちも発信することによって自分たちの地域の文化財の指定をいただきたいと、公民館は管理をきちんとしながらも、地域の盛り上がりがないとできないことなので、氏子総代長の方とかといっしょに進めてきているものがございます。申請させていただいているのですが、深められていくプロセスの中で決まってしまうものと期待しておるところでございますが、この文化財の申請を出させていただいてから、また一年伸びたんですけども、地域の人たちの盛り上がりを持続すること、盛り上げを醸成しているところではありますが、ぜひ申請したものについて審議員の皆さんの慎重なる研究、意見交換など、現況をお知らせいただき見通しというものはいただけるのでしょうか。令和という元号が1300年前の歴史から来ているということでもございますので、これからの歴史文化、自然の良さを次世代へ伝えて行く心部分のこともあるので、ぜひ飯田市としても23万円予算化されておりますが、これはどのような形の予算なのか、そして申請に対して積極的に取り組んでいただいているのでしょうかというところで、現況と姿勢をお聞きしたいと思います。

(座長)

文化財の保護、活用と社会教育委員、社会教育はどうかかわっていくのかとか、社会教育委員がそれ

それぞれの各地域の中で、指定されていない文化財も含めてどうかかわっていくかというのが社会教育活動そのものでございますので、そういうふうな意味で、私たちにどういうことが地域でできるのか、行政に向けて私たちはどういうことができるかという視点は押さえておいておきたいと思います。

(馬場文化財担当課長)

各地域の方から、あるいは個々の所有者の方から申請をいただいております。また私ども教育委員会の方でも調査を、社会教育機関等と調査研究を進めていく中で、価値が顕在化されたものについて、文化財審議委員会に諮問してご審議をいただいております。その中には、広い視野ともう少し調査研究を深めてほしいというものも当然ありますので、そういったところでお時間をいただいているものもあるかと思えますし、また、いろいろな類型があるものについては広く調査研究をする必要もある、例えば人形浄瑠璃などはそういったものになりますけれども、そういったいろいろな点をクリアしていく中で文化財指定されていくということで、お時間をいただいているものも多々あると思えます。そういったところで地域の熱が冷めないうちにとすることは、私どもも十分に感じておるところですけれども、また一方で私たちが調査研究を行うといった中で、地域の皆さんにその成果を、学習会などでお返しするようことをしながら、いっしょに取組をしていきたいというふうに考えております。

(座長)

飯田市は合併して大きくなりました。例えば、飯田市に合併する前の上郷町であったとしたら、この文化財であれば上郷町の指定文化財になったであろう、しかし飯田市全体になれば、少しレベルが落ちるだろう。座光寺もそういう取組をしたと思うんですけれども、旧町村のところの中で自分たちのふるさとの宝物をきちっとやっていこうじゃないかと、まちづくり委員会や公民館できちんとやりながら、下からの盛り上がりっていうものをしていかなければならないだろうし、市としての学術文化的なレベルできちんと査定する部分というのはどうしても必要でございますので、そういうふうなことを申し上げてこのところは納めていただきたいと思えますし、問題意識は共有できたと思えますので、よろしくお願いたします。

コミュニティスクールのことについて質問しようと思ったわけですが、時間がございません。

「2019年度 飯田市の公民館活動 事業計画」のところでは、地域学校協働活動と飯田コミュニティスクールという項目が(4)にあります。各学校でいろいろな方向があっていいし、各公民館がコーディネートして入っている中で、独自の取組があって当然いいと思えます。飯田市全体画一的に「こうせい」っていうんじゃないくて、非常にいいシステムだと思います。けれども、どうも私自身も上郷小学校のコミュニティスクールの学校運営協議会委員として、やっている委員はかなり満足感をもちながら関わっておるのですが、私の友達、けっこうアンテナが高い人に聞いても、何をやっているのか知らない。随時公民館長会やあるいは主事会で情報を出しながら、飯田市の方ですばらしいリーフレットを作ってくださいましたので、あれを見るとよその学校はどういうふうになっているのかとか、どういう学校目標でやっているのかとか、なかなか地域の中でコミュニティスクールが市民権を得ていないので、どういふふうに見ええるようにPRするかということです。あとは社会教育委員でコミュニティスクールの委員になっていない方々は情報を聴きつけて、聴きに行くという、それは許されることですので、そのような形でかかわってもらっていいのではないかと思います。

では、補助金のことについて、事務局お願いします。

(3) 社会教育関係団体に対する補助金の交付について

(担当より説明)

(座長)

委員会議としては承ったということでよろしいでしょうか。

はい、ではよいという意見でありますのでよろしくお願いいたします。

それでは事務局へお返しします。

7 各課・館・所からの報告事項等について

- ・2019' 文学連続講座、モリナガ・ヨウの絵本（中央図書館）
- ・カンボジアスタディツアー報告会（市公民館）
- ・ゼミ開始のご案内、地域史講座、飯田アカデミア（歴史研究所）

8 今年度の日程

（事務局から事務連絡）

9 その他

10 閉会

（北澤生涯学習・スポーツ課長）

皆さん、長時間にわたってお疲れ様でございました。

以上をもちまして、令和元年度社会教育委員会議第1回定例会を閉会いたします。

終了後、社会教育研究会（社会教育委員による自主研究）を実施。